

平成 26 年度 第 1 回 山科区民まちづくり会議グループ別討議まとめ

【① 環境を守り継ぐ】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 昨年から評価点数が上がっており、良い結果である。
- 個々の取組も良い取組が行われている。
- 公園・緑地等の整備について、区民の活動も進んでいる。
- 山科はエコ学区事業初年度から全 13 学区がエコ学区となっているなど、先進的である。
- 古紙回収や廃油回収の団体も増えており、リサイクルへの意識も高い。
- ゴミも減っている。

(2) 評価の方法について

- 自分が知っている分野は逆に採点が厳しくなる。わからないところは真ん中ぐらいの評価になる。
- 自分がかかわっている分野は評価できるが、そうでない分野の評価は難しい。
- わからない分野は採点をしないで空白とする方法もある。
- 自分の住んでいる地域以外のことはわからない。他の地域を見て回ったうえで評価することができたらよい。
- 分野別に採点チームをつくって各学区を見て回ったり、取組されている方の意見を聴いて、そのうえで会議をして評価してはどうか。
- 「低炭素社会づくりによる地球温暖化対策の推進」の項目の評価が前年に比べ下がっており、点数も低い。市全体の取組が多くあがっており、実態がわかりにくいことが原因ではないか。もっと身近でわかりやすい取組をあげる必要がある。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について

(1) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- 地産地消によるエコの推進という方法があるのではないか。
- 区内の各所で野菜の自動販売機（無人販売）があり、地産地消に役立っている。無人販売をしている箇所のマップを作ってはどうか。
- 山科の中心的な場所（区役所の前、農協の前、商店街の空き店舗など）で、定期的に野菜の朝市を開催し、規格外の野菜も販売する。
- 朝市は、エコイベントとして打ち出すのではなく、あくまでも地元の野菜の販売として開催し、来場者にエコの意味や二酸化炭素削減の効果、フードマイレージの考え方などを伝えていく。（伝え方のアレンジが必要である。）
- エコ学区の取り組みなど普段の自分たちのエコ活動が、低炭素社会づくりに繋がっているということを知ってもらうことが必要である。
- 分別については子どもの時からの教育、習慣づけが必要である。
- 親が分別しているかどうかを子どもは見ている。

【②－１ まちの魅力・観光を磨く】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- ざっくりした感想としては分かりにくい項目というのが結構ある。
- 評価できる自信がない分野は、よく分からないけど、何か申し訳ないから、何となく無理やり点数を付けてしまうことがしばしばある。
- 分かるところだけで良ければ、もうちょっと気楽に評価が出来る。
- ちゃんと評価したいと思うが、事業名しか無く、規模や成果が分からない。
- 過去の事業とかで終了しているのか、継続しているのか、実態と合っていない。

(2) 評価の方法について

- 評価者が自由記述をする欄があれば良い。そうすれば、今日の会議で出すような意見の多くを評価の時点でもらえる。
- 委員40人だけに聞くのではなく、パブリックコメントのような形で、区民に意見を聞いた方が良い。
- 事業については分かるが、これに対して区民の意識がどう変わっているのかが分からないので、効果が分かるような視点を入れた方が良い。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について

(1) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- 農業は全体的に点数が低い。
- 山科なすは、たいそうPRをしている印象があるが、すごく流通しているかというところでもない。昔はなすより筍ではないか。
- もっと山科なす自体が流通したら良い。
- 山科なすの苗を市民に配ることをしているが、もっと増やしたり、収穫だけではなく、市民農園やオーナー農園等、色んなものを増やしていければ良い。
- 農地の確保は、自然や景観の保全にもつながる。山科は $\frac{2}{3}$ が山地で竹やぶも多く残っている。自然をもっと活かす取組が必要。
- 山科では、野菜、果樹、花卉など種類や時期が色々な農業をたくさんやっているのので、旬を巡るツアーにすれば季節感のある観光と組み合わせられる。
- 農業施策は山科の市街地というより郊外で展開される。郊外は、公共交通の不便さが問題にもなっているが、自然豊かな土地でもある。交通施策の課題解消と観光が一緒に組められたら良い。
- 山科区は歴史を知るといふ発掘は、市民の手でいろいろとできているが、現代（近代以降の山科の変化）のことを語ったり、あるいは発掘した魅力から区民が何かを創造していくということに対するサポートがない。
- 区民が文化や芸術を享受するだけではなく、創造していくところをサポート出来たら良い。
- 観光施策については、山科は洛中とは状況等が異なっていることをふまえて取り組むべき。（山科の歴史や文化、寺社仏閣等を深く知ってもらうことが出来ればよい。64の寺社も活かしていない。）
- 琵琶やこども歌舞伎、はねず踊りなど、新たな魅力があり、これらを活かす取組が必要。

【②－２ まちの魅力・観光を磨く】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- やったかやっていないかはわかるが、どういった効果があったのかがわからない。
- 実際と評価にかい離がある。
- ※ 「(2) 伝統産業・農業を守る」「①伝統産業の活性化と観光活用」について、清水焼団地が「清水焼の郷まつり」などで頑張っているにも関わらず、点数が2点台である。発信力が不足しているのか。
- 実際、点数が上がったか下がったかなどは、どうでもよいことである。
- 何点であればよいのかがわからない。
- 委員も変わるので、年度ごとに個人差が出る。(厳しい人が多ければ厳しい結果になる。)
- 感覚的な評価になってしまう。

(2) 評価の方法について

- 行為目標(事業の実施の有無)のみであり、その事業がどう効果があったのか(状態目標)がない。
- 会議の委員のみで評価をしても発展性がない。
- 具体的な数値目標が事業ごとに必要である。
- そもそも観光振興の目的は何かを考える必要があるのでは。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について

(1) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- よい資源があっても、それが分散しているので、それらを結びつけることが大事。
- 良いコンテンツには、たとえ利便性が悪くても、人はくる。
- たくさんのチラシ等をばらまくよりもいかに良いものを良く見せるかが大事。
- 自ら発信をするのではなく、口コミで広がるような工夫が必要である。

・ その他の意見

- 清水焼では、アンテナショップを作ってそこから個々の作家につなげるような工夫をしている。

【③ 交通・都市基盤を強化する】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 取り組んでいる項目が多いと頑張っているように見える。
- 評価の際に、去年、おととしの結果を見ながら、今年はこんなものかと採点するパターンが多い。
- 交通・都市基盤の分野は随分評価点が低かったが、正しく反映されている。
- 交通・都市基盤の部分は財政の影響が受けやすく、なかなか人に伝わりにくい。

(2) 評価の方法について

- 13年度から継続していることを書いているため、取組項目を少し絞っても良いのでは。
- 今年はこんな目標でやっているとか、目標設定などの具体的な記載がないため、どうしても主観的となり、評価しにくい。
- 過去の評価結果に引っ張られすぎるので、前年度、その前の年度の評価結果を載せることについては検討が必要である。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について

(1) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- ソフト面で啓発や研修を頑張っているが、すぐに効果が出るものではないため、その啓発や研修を、行っているボランティアの人に頑張りを続けてもらえるような方法や励まし等に、取り組んでいっても良い。
- 自転車マナーの向上のため、小学生は講習を受けると自転車免許がもらえる。
- 指導者の養成には限界があり、拡大していくのは難しい。
- ボランティア活動や、その広報活動をしてくれるボランティアの大学生が少しずつ増えて来ている。
- 高齢者向けの交通対策の講習会も充実してきている。
- 公共交通ネットワークも少しずつ場所が増えてきている。
- ハード面では費用が掛かるため、できることが無い。

【④ 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 評価結果としては全体的に横ばいが多く、とび抜けて良い結果が無かった。
- 山科区の高齢化率が、東山区に次ぐ第二位（前期高齢者が多いという特徴）にもかかわらず、高齢者と障がい者分野の点数が比較的低くなっている。
- 評価結果が低いのは、障がい者や高齢者に関する事業の情報発信が不足しているからではないか。
- 障がい者については、介護者の高齢化もあり地域の行事などに参加しにくく、地域の方でも障がい者の実態が把握しづらいのではないか。
- 子育て支援については、点数が相対的に高かったが、毎年度点数が下がってきている。
- 子育て支援の中で青少年分野は点数が低い。部活をしていない中学生の状況が気になるため、もっと小学生と中学生の世代間交流などを活発に行い、中学生に役割を持たせることが大事である。
- ユニバーサルデザイン分野についても比較的点数は低かった。ユニバーサルデザインのパンフレットが児童館に届いても、子供にはあまりピンとこない。

(2) 評価の方法について

- 「分からない（空白）」は、なるべく点数を入れるべきなのか、それともちょっとでもあやふやならば無理をして入れない方が良いのかわかりにくい。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について

(1) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- 老人会に入らない高齢者が多くなったり、すこやか学級や見守り活動などの地域の取組にもなかなか人が集まらない。ただし、趣味のグランドゴルフ等のイベントへの参加者は多くなっている。
- 一人ひとりの趣味を社会貢献に繋げるようなしくみが必要ではないか。例えば高齢者が喫茶店を運営したり、コーラスをしてもらって福祉施設で歌ったり。
- 自宅前に花を植えて、登下校時間に水やりをすることで子供たちの見守りに繋げ、防犯に役立てる。
- 前期高齢者が山科区に多いということで、団塊の世代の人も何か貢献意欲があると思うので、一人ひとりのスキルや特技を集めて生かす仕組みを作り、それをすこやか学級などで教えてもらってはどうか。
- 男性高齢者が参加するような地域の取組が必要である。
- 子供や高齢者、障がい者ごとの取組ではなく、ミックスして世代間交流ができるような事業を進めて欲しい。また、いつでも誰でも自由に交流できるような場が必要ではないか。

【⑤ 地域のつながりを強める】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 「地域のつながりを強める」については、平均点が高かったが、空白回答がこんなに多い（14～16）のはどういうことか。
- すべての項目に対し、回答していない人がいるのか。委員であるなら回答すべきで、忙しくて回答できないということなら、委員を降りるべきだ。
- 事務局としても、なぜ回答しないのか聞くべきだ。
- 前年度の平均点や空白回答が多いことなどを見て、甘く回答すると、思いのほか平均点が上がると考え、あえて辛口回答をした。

(2) 評価の方法について

- 消防署では所長以外の職員にも確認したが、消防署として回答すべきところしか回答できなかった。行政関係者は、居住しているわけではないので、専門分野のみの回答にしてもらえたら、空白はなくなる。
- 百々学区の自治連の役員に集ってもらい、意見を出し合って回答した。
- 前任者から、回答は関係するところだけで良いと聞かされていた。
- 評価の仕方については、専門分野だけにしては…という意見もあったが、もともとの評価の趣旨としては山科区で生活している中の主観でいいので回答してもらうことで始まった。
- このグループは皆さん、初めて委員になられた方ばかりであった。評価は振り返りのいい機会だという感想を持つ一方、評価の方法について事務局の説明不足だったと指摘された。
- 委員だけの評価ではなく、評価者の公募をしてもいいし、PTAや各種団体などが集まったときに評価してもらうなど、多くの人に評価してもらってはどうか。
- 皆さんが答えやすくするための方法を事務局が提示すべきだ。
- 節目で区民アンケートを取るという意見もあったので、そろそろ、そういう時期かもしれない。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について

(1) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

<発信力の強化>

- 項目46の「地域の福祉力の強化」は平均点が「3.24」と高かったが、自分としては実感がない。44の「NPO…」にしてもそうだ。それはなぜかと考えると、発信力の問題でないかと思う。
- 48の「地域防災…」について、福祉避難所があるはずだが、市民は存在を知らない人が多い。福祉避難所という言葉を知っていても、どこにあるのか、仕組みが分からない。
- 福祉避難所へ行く必要がある人については、区社協が把握すべきだ。
- 福祉避難所については、各避難所の中に設置することとなっている。しかし、避難するときは、まずは町内会で集まる場所に行ってください、そのうえで、避難所へ行くことになる。

<市民活動の拠点の開設>

- 区民としては、何らかの拠点が欲しい。そこで情報がやり取りされ、市民活動が活性化される。それは区役所ではだめだ。土日でも開いているところ、いつでも、だれでも利用できるスペースが欲しい。
- 他の行政区の多くでは、旧コミセンに相当する「いきいき市民活動センター」があるが、山科にはない。
- インターネットの整備や、土日でも利用できるスペースが必要だ。
- 最近では、シェアオフィスといって、複数で使用するオフィスの手法も出てきているし、空き家流通促進事業も活用できるかもしれない。行政が入ると、持ち主も安心だ。自治会館の活用もある。
- 自治会館については、自分も含めて、存在さえも知らない人が多い。
- オープンな自治会館もあるし、オープンでない所もある。
- 百々の自治会館では有料だが誰でも利用できるようにしている。
- 「この自治会館はこういう条件で借りることができる」などの情報も区民に役に立つ。

<町内のつながりをサポートする>

- 今年度のきずな事業に採択してもらったが、町内会単位で交流する「なかよし会」を組織した。町内会単位でのつながりが強くなると、いろいろな情報も伝わるし防災にも役立つので、こういう取組が広がればいいと思う。